

休養改

あきらめぬことにてわが身を  
権入常任に致

まけるもて林のしらねるふふ

入道親とす侍

おれたのけい 長少 上朝の月

後小松院の御

はれあう月ついでに人をわろ

あ中納言雅康

うふふの月ついでに人をわろ

友原長清

おれたとあつとついでに人をわろ

常徳院権左衛門尉からしむ年

源俊の右号りい進考し

恒一位敏子

おの世とおし人のことりれ

考りたふらふの河さど

源俊元

りていしおのさくらやれいし

権入のあつていし

権入常任に致

一ひくくわいふらふのゆふさす

権入納言長隆

まていしつとつとやく権入



源朝

きほむらたをうらりゆり  
入右市右大臣

雲うらじふり木まや日まきと

源尚純

町ち月一いさくさく

あうと け下助

らるるのじいりふりあふ

之月二のり

宗朝

と細くあやうやりのいさ

法眼

月りつらつらあふ

えのらあふりゆりあふ

ふりつらつらあふ

三つらあふりあふ

とあふりあふりあふ

ふ月あふ

石橋

之月あふりあふりあふ

三代集の作者とあふりあふ

あふりあふりあふ

源朝

ふりあふりあふりあふ



夏月建辛酉

おんちん

むらさきの花のうらみひれ  
内裏にくと相度色白の約

権大御言室屋

五月よりきたりのうらみ

前右大臣

夏月建辛酉  
未暮れ

恒一位毎子

卜水にこころの地をからす

智彦法師

小柄ゆひさきこころの地を

水野新しきまつり  
夕のせきの中

前右大臣

物とくわふとくわふ

大深金剛院合おまの

百韻の建辛酉

法眼寺願

おんちん月つきの

納涼ふる

玄澄法師

ふとくわふとくわふ

宗徳法師



うすしとぬえしすり月之

寄柳は柳

秋としを神と交えしゆめとす

は橋も我

をすしそとをいしうすし木ぬらふ

冬良政は柳

うすやほらうまりす。折る也

新橋荒波集巻第十

發句ト

秋のしりうさなる

冬良政

風よりくさるとく木をさす

源政長柳

はらむき木とゆらぬ一葉れ

は下野助

あふしりうの風と一葉ふ

前野白

らうしきく折る也。ぬ柳れ

會一人のしりうさなる



その折に... 進言...

宗徳法師

塵とつさ風とほつるの葉

セツとる進言よ

右段

天河のつをいさるの比本礼

宗徳法師

石川や少いしめをさきあゆむ

権入常盤の鼓

いのりや七もよりのあふ長

同七月夜句

宗徳法師

あゆみもや... 二も方りてを

林まのたのしみ

江原まの

りく... の... 月... の...

條招法師

日晩も夕... 夕... の...

江原まの

錦... 玉... の...

慈照院念僧の鼓

林の... 林... の...

文の... 年... 八月... の...

宗徳法師



秋の風はたやすしのさうしぬ  
葉のたのたなふ

入道前右大臣

花らしき久ほく麻のふ葉れ

源尚純

風もく大落のたつこし麻のた

智徳源行師

右もろく小年たのたのた

能成行師

河をの吹とよりたのた

宗勲行師

まのふとふ種よき地じ地ふ

とれこころのこし魚のたあく

ゆききり

宗行行師

さくきくまのたのたのた

秋のたのたのた

源政吉源長

まのこがきこころのたのた

宗長行師

吹るは風やるまのたのた

権大常陸守

柳よりかりたのたのた

入道前右大臣











松の葉のしづか  
宗般は師  
は眼き順

をよむし水や草のゆく  
智彦は師

ふりりふたきさくく  
ふれまふ

菊一けさ雪のり  
ふりり

九月十日百約のき  
海製

わりのこきく  
はるし十三

たのき名とあ  
後小松院  
製

しに名り  
又の十八年九月  
和漢連る

山を  
前関白  
製

林の  
三子  
製

林の  
梅マ  
製

梅マ  
製

梅マ  
製







氏より小治りの時

宗祇法師

秋もすぬ秋のくくく無のせ

九月一平のありあり早の

道より能りけし

きりけりさ林のまにれり心

多良政は銅長

雪あつさくわくそつは林とれ

言林のうりごと

宗劬法師

林のれくんこつりトナリ

宗人僧正義運

ふりりく林のそらね紅紫ふ

直にのれ世のふされわ時あつ

きふらもてにまもつりさの

権人僧社心教

言のれりけりありのせりされり

にるりり信徳こらりて時あ

のるるふ

宗祇法師

世はあつとけりしれりありふ

は眼さ腹

ぬ木のしりりさつとさつ林り

権人僧社心教



月日は月とて千とて河女ふ

恋信は師

河とて浪の音をれはれ

は眼さる

浮吹止るくちりふしふ

津女月くちりふしふ

多良良波は朝戸

母は行すまきよのふね花が

智極は師

津の月木のり春ははな葉ふ

白川の笑え

下春は師

しりくくさるしりくの紅葉は

又この春ののゆき

深波は

木くちりてはあつるふり水

或は邦さる親

木葉しりくさるたつたふらふ

津御歌

風とて木のりくちりては

是人くちりて

津の月山内くちりては

は眼さる

津のりくちりては



道宣律師

衡の平... 衡の系

宗祇律師

氷... 衡の系

宗伴律師

吹... 氷を漸く

氷を漸く

後三条天皇の太子

ありて... 氷... 少くも

のち... 十一月... 皇

皇... 皇

日... 氷

又... 氷

慈照院金道僧正

わ... 氷

を... 氷

雪... 氷

前太子

山... 氷

指入僧正

わ... 氷

秋... 氷

権入僧正

羽... 氷



宗砌はゆ

りくろとぬ新いさるちるの松  
くくふくありぬいさる松を月

宗長はゆ

まこマリーチるの松をい願のち

十月のちのちのちのちのちのちの

とくうい 後志は度いさるの松を

くりちるちるちるちるちるちるちる

ちるのちるちる

宗長

席のちの松いさるちるちるの松

又いさるちるちるちるちるちるちる

ちるのちるちるちるちるちるちる

三宗親と

ちるちるちるちるちるちるちる

ちるちるちるちるちるちるちる

普賢院増長殿

ちるちるちるちるちるちるちる

ちるちるちるちるちるちるちる

権入御言

ちるちるちるちるちるちるちる

ちるちるちるちるちるちるちる

源勝元朝臣

ちるちるちるちるちるちるちる



は侍も哉

右うねりりり又六月之れ

法三位義教

月暮し平の人のふりみ

智彦法師

月暮りの父とてはなれ

宗徳法師

もつれとをよふの平のれむ

友原房定朝臣

願のつらうむをこせ同ふ

西長政法師

おとし得りまのふれとれ

青柳法師

かりうとえとやあ(雲の願

は眼き願

ふすきり給るゝ徳とふれ

宗行法師

わん柳やしん自雲のせらふ

子梅と は服き願

冬とらやもへんるのいれは

多長政法師

しやまむしをたこけの宮の梅

前美白 七葉

春もてしむとく梅のこよふ



観音寺入念の巻終に  
梅のついでいづれつりあつて四方の云

前々巻に

とつてついでいづれつりあつて四方の云  
一風そよりあつていづれつりあつて

巻終に

廿二巻のついでいづれつりあつて四方の云

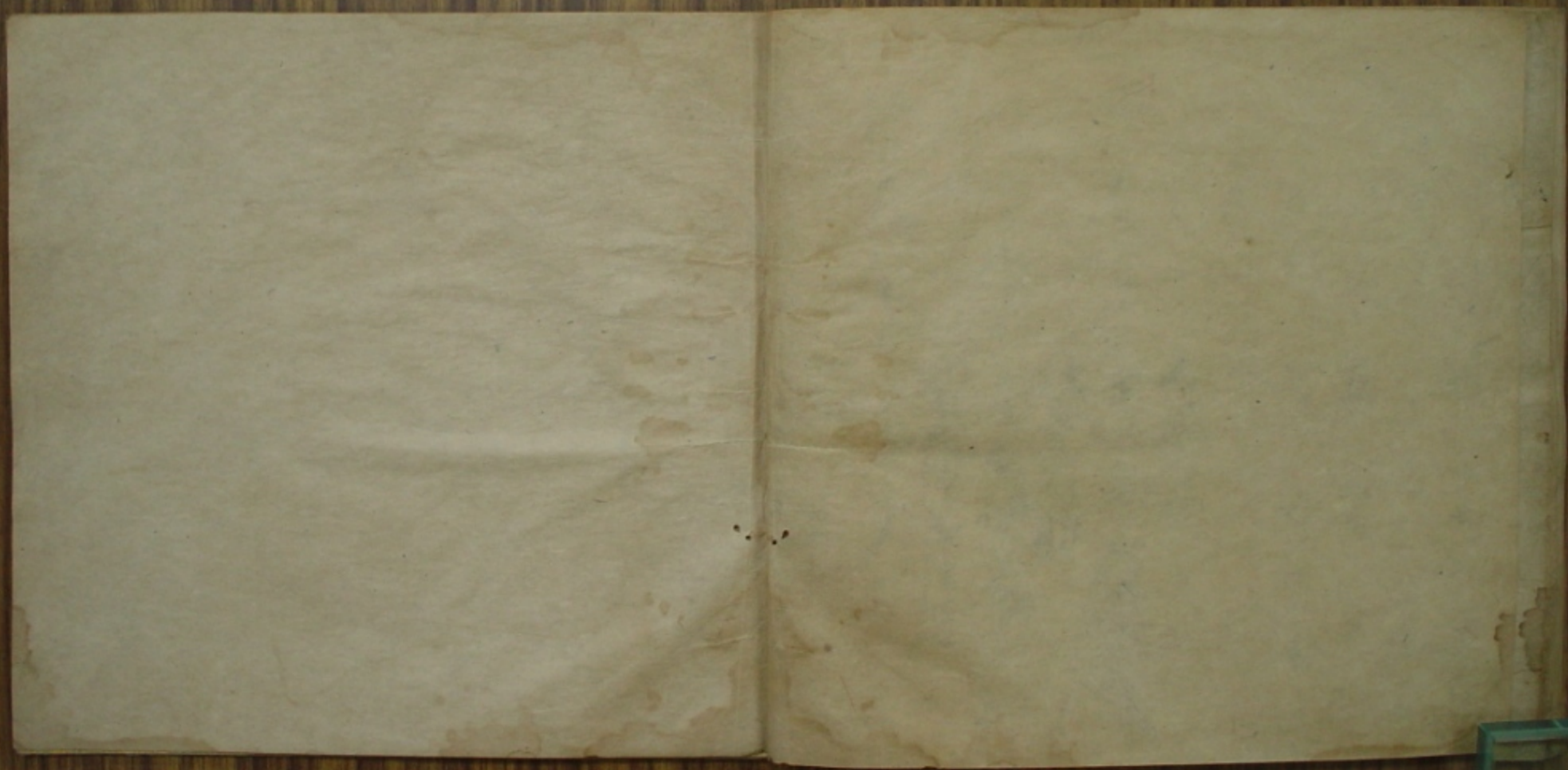
法宗の助

ついでいづれつりあつて四方の云

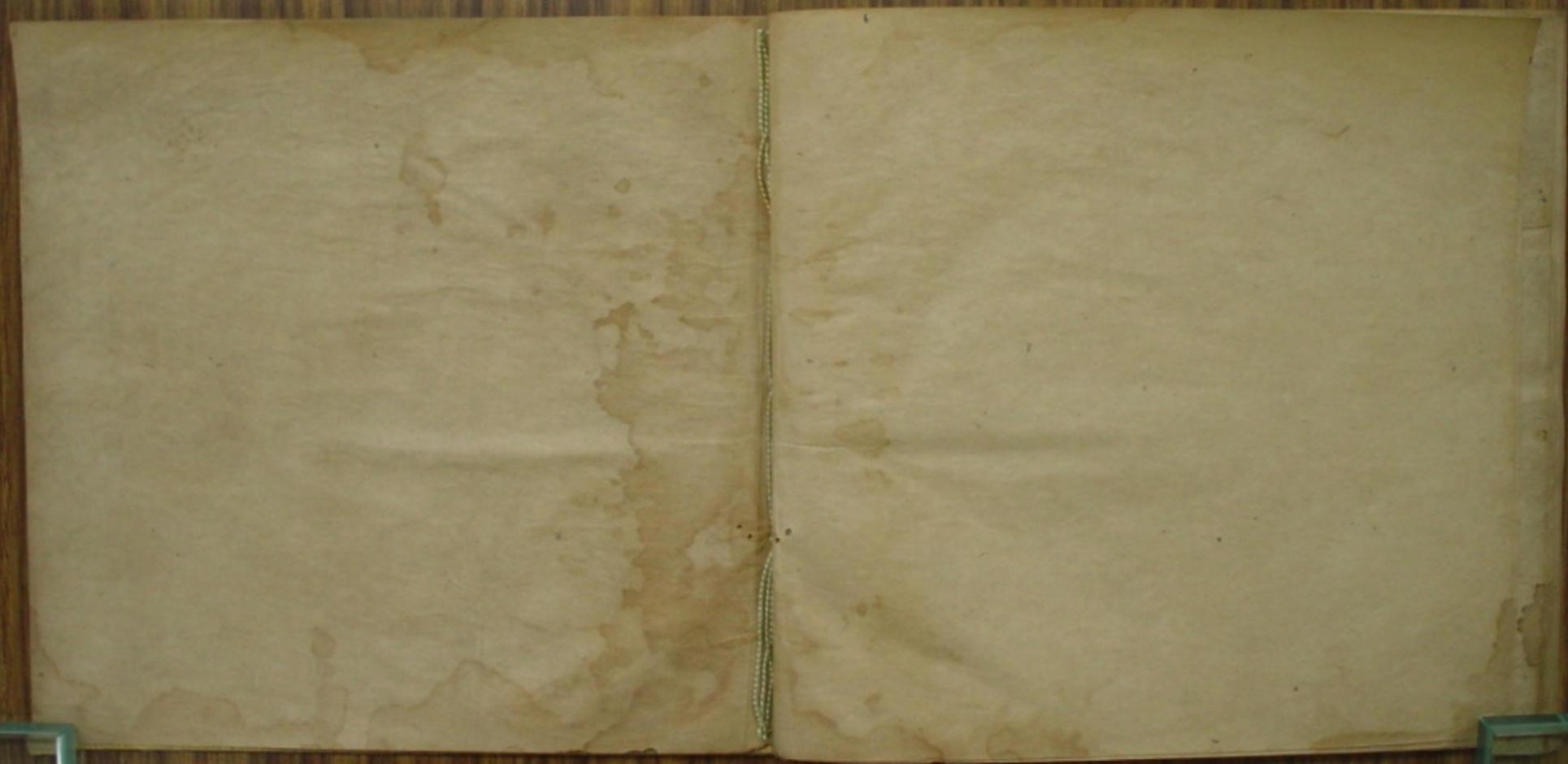
前々巻に

ついでいづれつりあつて四方の云













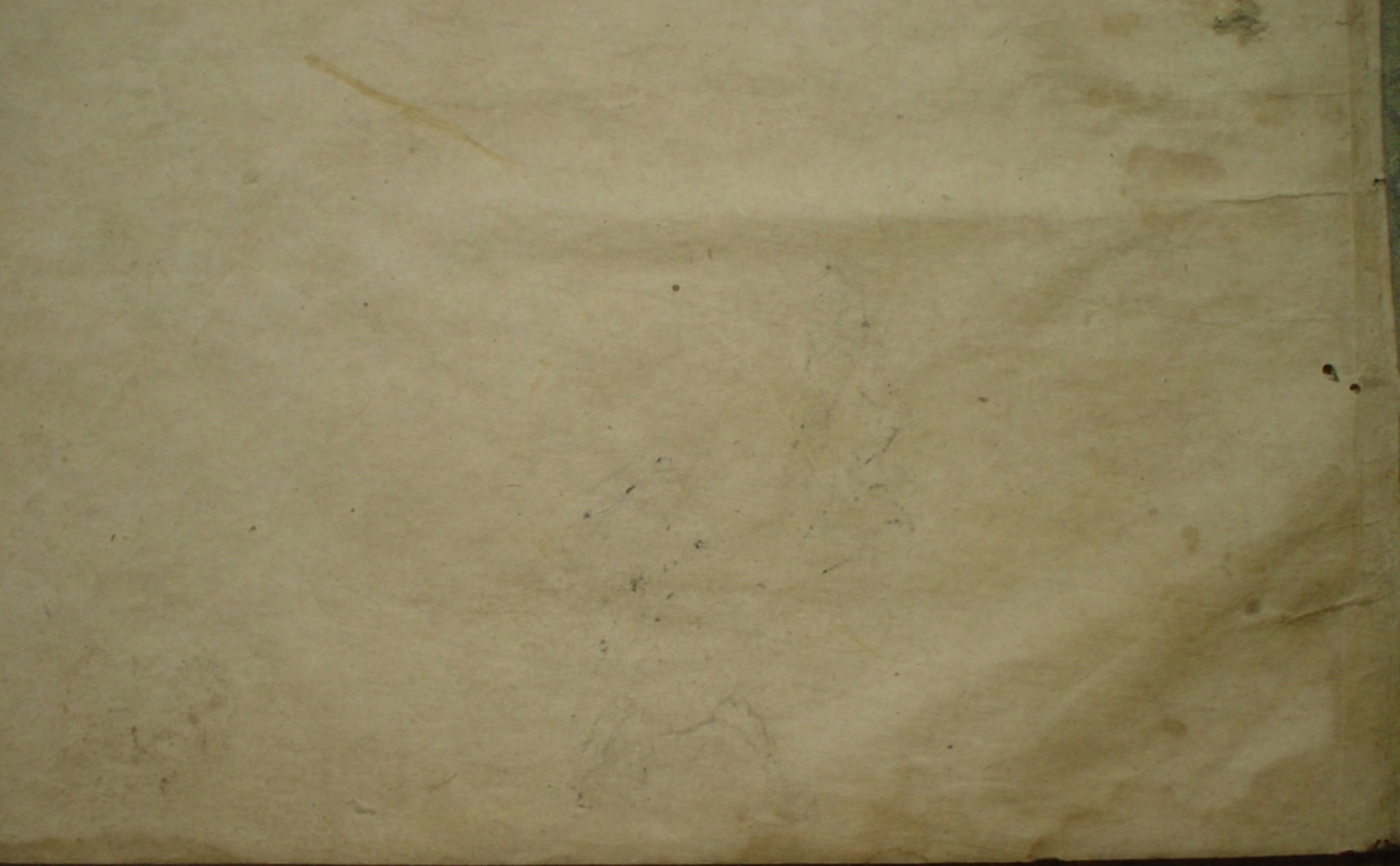












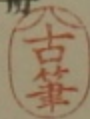


十  
九



二海亦軒飛鳥井雅康卿  
大内多々良改引

初二卷册  
外二卷册









Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Faint, illegible handwritten text, likely bleed-through from the reverse side of the page.

親身入合が及た  
秘し... 亦た名に  
よりの... 此のまに...  
大... 名...  
世... 水...  
...  
...

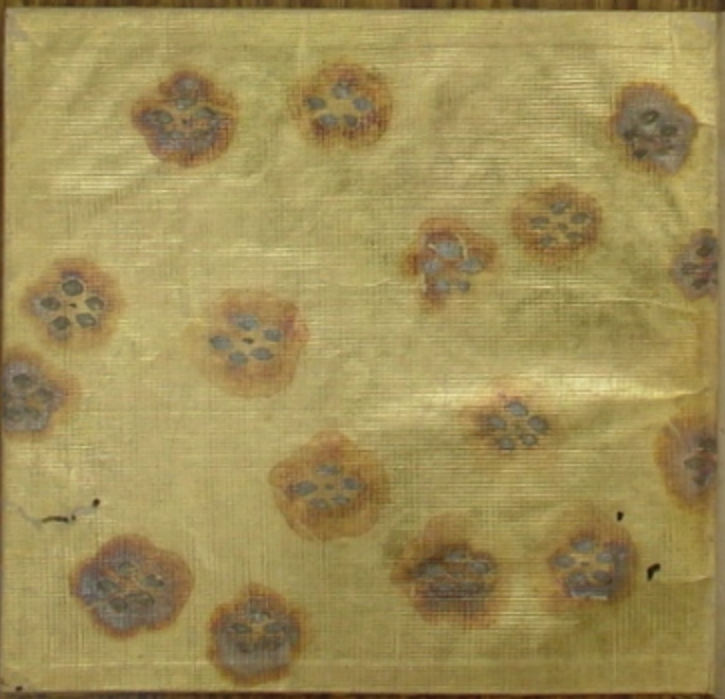
丁

11月...  
...





墨付紙數八十五枚  
礼紙五枚



墨付紙數六十四枚  
礼紙四枚

二海新飛馬并雅康印  
大内多良波引  
初三州  
外二卷母  
